

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	加古川市立こども療育センター		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和7年11月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和7年11月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月29日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通園の形態であること	<ul style="list-style-type: none"> ・親子一緒に支援を受けることで、保護者がこどもの特性や関わり方を理解しやすくなるよう配慮している。療育の中で関わりを共有しながら、保護者の不安や疑問にその都度対応し、安心して関われるように工夫している。また、こどもの理解を深めることで、この時期に大切な愛着形成ができると考えている。 ・保護者と職員の距離が近く、随時面談や相談が可能である。また、保護者同士の交流を通して、つながりや安心感が育まれる場を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや目的の共有と、振り返りの時間を充実させ、家庭での実践につながる具体的な助言を行っていく。また、職員間での支援方法の共有を進め、支援の質の向上を図る。 ・保護者同士、および、保育士と保護者の関係性をさらに深めるため、保護者会や学習会の場での内容やテーマを検討するとともに、相談しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。
2	・医療、訓練、相談支援と連携した支援体制が可能なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内に診療所を有しており、保護者の同意のもと医療職員と訓練職員が日常的に情報共有を行うとともに、支援内容についての相談が可能である。 ・医療的ケアが必要な利用児についても、看護師と連携をしながら対応しており、安心して支援を提供できる体制を整えている。 ・相談支援専門員が常駐しており、定期的にサービス担当者会議に参加するだけでなく日常的に情報を共有し、支援の方向性の確認ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携という強みを活かしつつ、情報共有の方法や支援の方針の整理を進めることで、より一貫性のある支援の提供を目指す。 ・ケース会議等で様々な視点での意見を参考にし、より良い支援につなげていく。 ・他の相談支援事業所を利用している児についても、保護者の同意のもと担当相談支援専門員と必要な情報を共有し、支援の方向性が一貫するように連携を図っていく。
3	・個別支援計画をより具体的にたてられること	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前のプレ保育を通して、こどもの特性や関わり方を事前に把握するとともに、保護者の同意のもと医療情報を共有することで、より詳細なアセスメントを実施している。 ・保護者が日常的に保育に参加し、職員と共通理解を深めていることから、本人の思いや特性を大切に目標設定につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援内容を職員間で共有し、こどもの状況に応じた無理のないステップでの支援が行えるようにしていく。 ・今後も職員間で定期的に打ち合わせを行い、プログラムが固定化しないよう季節に応じた遊びや活動を取り入れ、内容の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・市立の施設という特性上、職員の異動が生じる場合があり、支援の継続性や一貫性をどのように維持していくか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動により、こどもや保護者との関係性の再構築が必要となる場面があり、支援の意図や細かな配慮が十分に引き継がれない場合があることが、支援の継続性に影響を及ぼす要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動があっても支援の質を維持できるよう、日頃から個々の支援内容や関わり方について職員間での情報共有や引継ぎを丁寧に行っていく。 ・引き続き、安定した支援の提供ができるように、打ち合わせや記録の充実、研修等で知り得た情報を共有する。
2	・親子通園の形態であること	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園の支援形態は、保護者と支援内容を共有しやすい反面、保護者の就労状況や生活背景によって参加のしやすさに差が生じるという側面がある。特に就労をしている保護者や就労を考えている保護者にとっては継続的な参加が難しくなる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労状況や家庭環境に配慮した柔軟な親子通園を検討していく。 ・先に述べた事業所の強みをさらに強化していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	加古川市立こども療育センター
------	----------------

公表日 令和8年1月29日

利用児童数 31 (令和7年11月1日)

回収数 22

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22					引き続き、活動に応じ使用する場所を変えながら、安全に過ごせるスペース確保に努めます。また、部屋の大きさに応じた人数調整をしていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1		1	・新しいお友達が仲間入りしたのでどんな特性があるのかまだ分からず、先生が付きっきりになる事が多い。ママ休憩の際に1人になっていないか心配になる事があります。	新入園児受け入れ時の課題として職員間で共有し、継続的に関わり方について見直しをしていきます。また、全体を見守る職員を配置する等、体制を整備していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	1				引き続き、活動場所や動線、物の配置について、こどもにわかりやすい構造化になっているかを職員間で再確認し、こどもの特性に応じた環境づくりや設備の整理に努めます。その中で、危険につながる可能性のある場所や物について点検を実施していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22					引き続き、清掃、点検、感染防止対策をし、心地よい空間づくりに努めます。また、エアコンや加湿器を活用しながら適度な室温や湿度を保てるよう配慮します。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2			・支援の経験が豊富でしっかりと向き合ってもらい、色々なハンデのお子さんがある中、その子にあった目標を立てチャレンジをさせてくれる先生、経験が浅くともどのように介助や支援をすれば良いか細かく親に聞いてもらえ、積極的にこどもに関わってもらえる先生にはとても感謝しています。経験の有無にかかわらず、特性やハンデのあるこどもに対して理解して受けとめてもらえるか、真剣に向き合ってもらえるかが重要と感じています。どの先生に至ってもという点では、正直疑問を感じるので、どちらともいえない。を選んでいきます。 ・保育でこどもがおもちゃを選択する時に、もう少し待つてほしいと思う場面があった。おもちゃを選ぶのに時間がかかり、引き下げられてしまつて子どもが怒って泣いたのに、「このおもちゃで遊ぶのは嫌だったのかな？」と違うことを言われて少し残念だった。興味を持って手を伸ばしていたのに、サツとひっこめられた感じだった。話さない子や遊ぶのに時間がかかる子もいるので、ゆっくりじっくりと関わってほしいと思います。 ・先生方がプラス思考で考えてくれるのでとても助かっています。 ・色々なお子さんがおられる中で、一人一人に合わせてその子が少しでもよい方に行けるように支援していただいています。	職員の関わりにおいて、こどもの気持ちやペースが十分に尊重されていないと感じさせてしまう場面があったことを深く受け止めています。 経験年数に関わらず、こどもの特性を理解し真剣に向き合う支援が行えるよう、職員間で支援の姿勢を再確認し、関わり方の見直しを行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22					今後も、支援プログラムと日々の支援が一致するよう、内容の確認と見直しを行いながら、様々な活動プログラムの提供に努めます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				・できることを継続的に続ける事や、新たなチャレンジを支援の中に組み込んだりと色々な案を先生方も一緒に考えてもらえ、私の考えや思いを大事にしてくださいいつもありがとうございます。	引き続き、保護者のニーズをしっかりと聞き取り、子どもの姿や目標を意識し職員間で意見交換をしながら、個別支援計画を作成していきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	3			・家族支援、移行支援の内容が分かりにくい。	支援内容の整理と説明方法の見直しを行い、保護者に分かりやすく伝える工夫を重ねていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					個別支援計画の目標達成に向け、継続した支援が実施できるよう、生活や遊びの中で取り組める計画を立て取り組んでいます。
10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22				・こどもの障害や状態に合わせて色々な遊びを工夫してくれています。 ・自分のこどもが苦手な活動内容であっても、工夫して一度チャレンジしてもらえ、その子の特性に応じた対応をしていただき、できなかった事が日に日にできる喜びを親子で共有でき嬉しいです。	今後も集団ならではの遊びや季節の遊びなど、職員間でアイデアを出し合いながら、こどもの発達にあった活動が提供できるように努めます。今後一人ひとりの発達段階や得意、苦手な配慮しながら、こどもが安心して挑戦できる活動づくりに取り組んでいます。	

	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	1	5	3	・1箇所のこども園との交流しかないので他の園とも交流してみたい。 ・機会がありますが年間3回は少なく感じますし、知ってもらえて仲良くなれそうだなというタイミングで終了してしまいますので、ゲスト感が否めないうえ、もう少し回数を増やしていただけると嬉しいなと思います。	交流保育の実施回数や内容について、今後も見直し検討していきます。こどもが安心して関われる形を大切にしながら、地域とのつながりを広げていく取り組みも検討していきたいです。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22					引き続き、運営規程、支援プログラム、利用者負担等の説明について、保護者に丁寧で分かりやすい説明をおこなうよう努めます。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					引き続き、児童発達支援計画について、保護者に丁寧で分かりやすい説明をおこなうよう努めます。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	1	2	1	・加古川市在住の方のみの参加プログラムが多く、市外の人もかなでを利用していたら参加できる様にしてほしい。	引き続き、保護者とコミュニケーションを図り、併設する診療所の専門職員とも連携しながら家庭支援に取り組んでいきます。他市在住の保護者に対しても、情報提供ができるよう努めます。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	22					・母不在時の状況など頻りに教えてもらえます。	引き続き、親子通園の利点を活かし、こどもの発達や状況、課題について共通理解の徹底に努めます。また、保護者分断時のこどもの様子や変化についても共有することで、健康面や発達面の共通理解を図っていくように努めます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1				・定期的なかどうか分からない。支援計画の相談が面談に当たるのか、面談の頻度が分からない。	保護者からの相談に適宜対応し、アドバイスが出来るようチームで対応します。その後の経過も聞き取ることで継続的な支援を行えるよう努めます。今後は、面談の時期や内容について分かりやすい説明を行うよう努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22						引き続き、保護者やこどもに寄り添うことを心がけ、成長と共に享受できる支援となるよう努めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	1			2	・きょうだい児の交流が夏季節登園のときしかないのが目障りなど、もっと交流できる機会があればいいと思います。 ・夏休み時の保育でのきょうだい児参加は、きょうだいにとっても色んな子どもたちがいることを知ってもらえたり、成長させてもらえる場だと感謝しています。対象が小学生までですが、歳の離れたきょうだいもいます。きょうだいにとっても、ハンデあるきょうだいへの自分自身の気持ちの受け止め方や、関わり方など勉強になるのでは、と思うので、中学生まで対象を広げてもいいのではと考えます。 ・小学生までのお子さんが対象なので、この範囲を広げてもらえるとすごく嬉しいです。	現状では人員や運営体制の都合上、実施内容に限りがありますが、ご意見を大切に受け止め、行事以外の形も含めた支援のあり方について、今後も検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1			2	・期待したいです。 ・すぐに対応してもらえるのでありがたいです。	引き続き利用者からの相談や申し入れに対する体制の整備や周知に努め、申し入れがあった場合は迅速かつ適切に対応していきます。また、相談や申し入れをする時間を取ることが難しいときは、内容を記入した用紙で伝えることができるよう、相談用紙の投函箱も設置していますので、活用していただけるように周知していきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22						引き続き、丁寧な情報伝達ができるよう、いろいろな方法を試しながら、その時の最善の支援ができるように努めます。また、保護者に対してはわかりやすい説明を心掛けます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17		1		4		引き続き、活動内容や緊急時の対応について、理解を深めていただくために、情報発信をしていきます。ホームページの内容や更新状況、また、個々のケースに応じた情報提供のあり方について、さらなる工夫や見直しが必要であると考えますので、今後も情報発信体制の点検と改善に取り組んでいきます。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	1					引き続き、個人情報の取り扱いについては、細心の注意を払い適切な取り扱いを徹底します。	
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22						今後も緊急対応マニュアル等の内容について、随時見直しを行い、適切な対応について周知徹底を図っていきます。また、避難するときのポイントや注意事項などが、よりわかりやすく伝えられるような方法について検討します。	

非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22				引き続き、様々な非常災害を想定した訓練方法を検討すると共に、保護者の協力を得ながら定期的に必要な訓練を実施します。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1			・室内外の遊具で遊ぶ時に、こどもの体の支え方が危ないと感じたことが何度かあります。 安全な関わり方や見守りの方法について、職員間で再確認を行いました。職員により安全確保の意識に差が生じないよう、支援の手順の共有と体制づくりを進め、安心して支援が受けられる環境整備に努めます。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	2	2		・事故の報告はあったが、具体的な状況の説明がなかった。自分も詳しく聞けなかったのが悪いが、あとから周りの人に聞いたことと少し違ったので心配になった。 事例発生時にはすみやかに保護者へ連絡するとともに、状況説明や対応についても十分な説明が行えるようにしていきます。また、職員間で情報共有の徹底と発生防止等について協議し安心安全な環境づくりに努めます。また、大きなけがや事故につながらないヒヤリハットや小さな怪我についても職員間で情報共有を行っていきます。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	22				・2年半利用しています。慣れるまでに時間がかかりましたが、先生方がいつも優しくこどもに寄り添い、今、必要な関わり方をその都度考え母にも助言してもらったり、どんな感情も共感してもらえたおかげで今ではこどもも大好きな場所になりました。 ・センターが見えると、先生！と嬉しそうに言います。息子にとって安心してのびのび過ごせる環境に出会えて良かったです。	引き続き、こどもが安心して通園できるような環境づくりに努めます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	21		1		・親子通園なので、こどもも安心して楽しく通えています。先生方が本当にいつも笑顔で優しいので、楽しく通えています。 ・先生のことが大好きで、顔を見るとニコリします。お友達のママのことも大好きです！教室の雰囲気がとても良くて私も楽しみにしています。 ・親子登園だからこそ、楽しみにしてるんだなって気が付きます。	引き続き、こどもが楽しく通園できる場所となるよう、子どものニーズや発達にあわせた環境づくりや支援の提供に努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1			・いつも色々な保育をしてもらえるので、毎回親子で楽しんでいます。いつもこどもに寄り添った保育なので、みんなが参加できて雰囲気も温かいです。こどものことはもちろん、母の心のサポートまでいつもしてもらえるので本当にいい施設だと思います。通ってよかったなとすごく思います。いつもありがとうございます。 ・全体的には満足しています。保育の時間中、先生同士が連携が取れておらず噛み合っていないかったり、緊張した空気になる時がたまにあり、気を使うのが疲れることがある。	引き続き、こどもや保護者に寄り添いながら、一緒にこどもの成長を喜ぶことができるような支援の提供に努めます。 職員同士の連携が十分ではなく、現場の雰囲気に不安や気遣いを感じさせてしまう場面があったことに関し、今後は、職員間の情報共有や役割分担を見直し、こども、保護者が安心して過ごせる環境づくりに努めます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		加古川市立こども療育センター		公表日		令和8年1月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	1	・肢体不自由児が個々に使用する器具を入れると十分ではないことがある。また発達グループでも活発な児が多い場合は遊戯室を有効利用したり、保育室の大きさに応じて利用児の人数を変えたりしている。 ・クラスにより器具のこどもが多い時は遊戯室や廊下を使い保育をしている。	・保護者同伴と考えると、出席人数や遊びの内容によっては狭く感じる時がある。引き続き、遊びを工夫したり戸外や遊戯室を使用し他クラスと部屋を交代したりするなどの工夫をしていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		・こどもの出席人数に応じて人員配置の調整をしており、遊びの内容によっても臨機応変に配置している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		・利用する児の特性に応じて、療育環境を変えている。 ・肢体不自由児のクラスと知的発達クラスが部屋を共有するため構造化は難しいが、視覚支援や視界を遮断できるような衝立を準備し配慮している。 ・バリアフリー化されており、廊下は車いすや歩行器等でもスムーズに移動出来る幅になっている。 ・個々に合わせた机や椅子を準備し、高さ調整をしている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		・心地よく過ごすために、保育終了後に清掃と消毒、換気を必ず行っている。倉庫や収納棚を活用し、使用するものだけを出し活動空間の確保をしている。 ・保育中は換気や空気清浄機(冬季は加湿も行)を使用し感染症対策も配慮している。 ・個々の体調に合わせ、冷暖房の温度調整をこまめに調整するだけでなく、直接送風が当たらない場所で過ごせるようにしている。 ・アルコール、次亜塩素酸がすぐに使えるように各クラスやトイレに設置している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		・遊戯室、静養室、廊下等場所の提供をしており、こどもが落ち着きリフレッシュできる場として職員が共通理解し活用している。 ・遊戯室や廊下の一角、戸外、室内ではパーテーションで区切った個別スペース等を設置している。 ・必要に応じて、個別の部屋、衝立等を使ったスペースを作り使用している。 ・痙攣やパニックなどで退室をしたほうが良いと判断した時は、廊下に出てクールダウン、チューブの交換やガス抜き等別室での対応が必要な場合は、部屋を確保している。	・登園状況により使用できるスペースが日によって変わるため、何時でもどんな場合でも対応できる部屋の必要を感じているが、現状では難しい。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		・日誌に個別支援目標が反映されており実施しやすい。また保育後には振り返りと検討、見直しを行っており、その内容を次に活用している。 ・保育会議、個別支援会議、毎日の打ち合わせ等、各クラスで日々の保育内容や行事、こどもの関わりなどについて確認し、職員間で共有している。	・職員間での共有を丁寧に図っているが、時間的拘束が長くなりがちで負担となっているため、内容の見直しが必要。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・評価を見て改善できるところはどこか職員間で検討し、より良い支援を探っている。 ・保護者の意向等について話し合い、改善努力をしている。	・意見を反映できる部分もあれば、難しい内容もあり(保育だけでは改善できない内容など)改善できていないこともある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・各行事終了後に次年度に向けての意見交換をしたり、日々の療育においても振り返りをしており、日々の療育においても振り返りをしており、またその他の会議等でも職員の意見の交換の場は持っている。	・職員から出た意見に対し、十分に業務の改善ができていない部分もある。		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	加古川市立こども療育センター			公表日	令和8年1月29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		12		・第三者による外部評価は行われていない。 ・保育のどなたに特化した講師を呼ぶのか、定まっていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・希望する研修や、経験年数に応じて研修に参加できる体制をとっている。 ・内部研修として受講した研修内容や知識を伝えあう勉強会や、他部門と連携し意見交換しあうケース検討会議などを行っている。 ・子どもへの関わり方を話し合い、日々の保育に活かせるよう資質の向上を図っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		・こども療育センター 児童発達支援「かなで」のHPに記載している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・アセスメント、モニタリングの中で子どもと保護者のニーズを把握し、個々の発達に応じて無理のない達成できる支援計画が立てられるよう心がけている。また、子どもの姿やそれに伴う課題を職員間で充分に話合っている。 ・子どもの発達、日々の療育の様子、保護者からのニーズを把握し、話し合いのもとで作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		・目標を立てる際、具体的な取り組みを記すことで、どの職員と関わっても同じ支援を受けることができ、楽しく取り組めることに重点を置き作成している。 ・支援計画会議に児発管、担任、相談員、看護師が参加して情報共有を行っている。また、会議に参加していない職員も確認できるようにしている。 ・一人ひとりの子どもの特性に応じ、個別や集団活動を組み合わせ、適切な計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		・月毎の日誌に細分化した目標を記入している。その為、計画に沿った支援ができるよう毎月振り返ることができている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	3	・日々の行動観察の記録や分析、評価をもとに、スモールステップで目標を達成することができるよう職員間で確認している。 ・子どもの発達検査の結果を保護者と共有したり、子どもの行動を客観的に捉え強みや課題などを把握したりしている。子どもの行動を観察し記録をとったり保護者と面談したり、その他関係者から子どもの具体的な行動に関するエピソードを聞き取ったりし、それらを総合的に組み合わせることで、子どもの全体像をより深く理解し計画の作成に役立てている。	・日々何気なく取り組み実行しているが、改めて意識していきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		・必要に応じて移行支援や地域支援の項目も含んだ計画を策定し、スムーズに移行できるようにしている。 ・その時の子どもに何の支援が必要か考えて目標設定している。支援内容を具体的に記すことで誰もが同じ支援ができるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		・年度当初は次週のプログラムを週末に検討していたが、後半は必要に応じて全体で検討をしている。全体で把握することにより、療育の内容や幅が広げることができている。 ・保育・行事のプログラムは保育部内で連携しながら取り組んでいる。	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	加古川市立こども療育センター				公表日	令和8年1月29日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用児の特性や好み、成長に応じて立案したり、季節や行事を取り入れたプログラムを検討したりしている。 ・ 他クラスの職員と季節の制作や遊びの内容を相談している。 ・ こどもの様子・季節・行事に応じて検討することができている。 ・ こどもの発達、個々の興味関心、季節、こどもの願い、支援者の願いに応じた活動プログラムを立案している。 ・ 題材は同じ遊びであっても、一人一人に合ったねらいや関わり、準備をしている。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団でできる内容と個別でできる内容等、その日の出席状況、個別保育等に応じて検討することができている。 ・ 集団活動でしたことを個別保育でも取り組むことで成功体験を増やし、少し苦手な事もスモールステップで「できた」が見つけれられるようにしている。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ チームで支援を行っていきけるようにコミュニケーションをとっている。 ・ 各クラスの担任がその日の保育内容について共有・確認するようにしている。 ・ 朝の打ち合わせで他クラスの保育内容、支援を聞くことで支援の知識を得られるようにしている。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく、振り返りをして気づいた点、改善点、良かった点の話をするようにしている。 ・ 支援の振り返りを次回の支援に活かすPDCAサイクルができている。 ・ 記録を記入する際にこどもの様子や保育内容の反省、保護者からの情報等をクラス担任で共有している。また、必要に応じて他クラスの職員にも共有している。 	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの様子を記すことで、安全管理、発達サポートに生かせるようにしている。 ・ 支援の振り返りを次回の支援に活かすPDCAサイクルができている。 ・ 毎日の保育記録、月1回の保育士会議、ケース検討などで支援の振り返りを行い、改善が必要であれば行っている。 	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 半年に1度振り返りをしており、こどもの姿を保護者と共有すると共に次の発達を狙った目標の共有もしている。 	
障	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児発管とクラス担任が必ず参加し、詳細まで共有できるようにしている。 ・ 児発管と担任が入り、関係機関と児の情報を共有して、同じ方向を見て支援していくことができるようにしている。 ・ 出席できない場合も、資料としてこどもの様子を記したものを閲覧している。 	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流保育、診察（耳鼻科、歯科、内科）等で整えることができている。 ・ センターに併設された診療所とは保護者の同意を得た上で情報共有し、並行通園しているこどもについては、園訪問をすることで連携を図っている。 ・ 保護者からかかりつけ病院での情報を聞き、保育に活かせる部分は取り入れている。 ・ 看護師が児童発達支援の保育に参加し、こどもの状態や医療等の情報共有ができている。 	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		加古川市立こども療育センター		公表日		令和8年1月29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・地域の幼保こども園等に保護者の了解を得た申し送り書の作成と共に、希望者には訪問をし情報の共有をしている。 ・保護者の希望や必要に応じて園と連絡を取り合い、その都度変化することのの様子や保護者からの情報を伝えている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・申し送り書を就学先に渡すとともに、必要に応じて保育見学等を行っており、連携、相互理解が図られている。		
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	10	2	・センター診療所の職員が他の事業所を対象とした研修を実施している。 ・定期的な取り組みは行っていないがサービス担当者会議に参加することでこどもに関わる支援が円滑に行われるようにしている。 ・事業所開所を検討されている施設に応じて、施設見学や保育見学を所長、児発管や主任が対応している。		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	12		・専門職に支援の方法を確認したり、連携会議を行ったりすることで多職種間での意思疎通を図っている。 ・併設している診療所からこどもについての助言を受けたり医師や訓練士が保育見学を通し気付いたことがあれば情報を共有し連携を図ったりしている。 ・研修については、職員の経験年数に応じたものや興味のある研修に参加できるようにしている。		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	12		・自立支援協議会はセンター診療所の職員と相談支援員が参加している。 ・子ども・子育て会議はセンター管理者が出席している。		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	/	/	/	/	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		・肢体不自由児クラスの3歳児以上は、交流保育として、年間3回、地域の認定こども園のこども達と交流する機会を設けている。 ・並行通園のこどもは地域の園へ通いながらセンターを利用しているため、一緒に活動ができています。	・交流保育の回数が3回しか実施できていないので、もう少し回数が増やせるように検討したい。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		・保護者同伴の事業所のため、日々の療育の中でこどもの成長や変化の共有が図れると共に、課題についても保護者と一緒に考えることができる強みがある。 ・必要な際には個別で話を聞く機会を設けている。	・こどもの状況確認や課題について、職員により対応の差が生じているため、複数担任の強みを活かし職員間の情報共有に努めていきたい。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		・月1回開催している保護者会での研修や通信物での情報提供をしている。 ・保護者会を通じて制度や支援学校、発達検査の話聞く機会を設けている。また、勉強会を通じて知識や経験ができるようにしている。 ・保護者も参加できる研修やイベントがあればその都度通知している。	・家族支援プログラムの内容が毎年同じものにならないよう工夫していきたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		・児童発達支援を利用することになった際、個別支援計画の説明や事務説明の中で伝えることができている。 ・保護者一人一人に話す時間を設けて、丁寧な説明を心掛けている。 ・質問にもその都度説明をしている。			

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	加古川市立こども療育センター			公表日	令和8年1月29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・作成する前にこどもの姿の確認、保護者の思いを聞くようにしている。こどもや保護者の意思の確認を行い、その意思を尊重しセンターとして支援できることを提案したうえで計画に入れるようにしている。 ・作成した計画を説明、共有し、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けている。 ・半年に1回の振り返りや次の目標を保護者と話をしながら進めている。 	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の支援を行う前に必ず保護者に説明する場を設け、支援計画内容についての同意を得ている。 ・計画時からこどもの様子が大きく変わった場合はその場で聞き取りを行い変更をしたり、再度計画の見直しをするようにしている。 	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的ではないが、その都度、相談には適切に応じ、必要があれば面談等の支援が行われている。 ・親子通園のため保護者の家庭での悩みやしんどさがありそうな時は、話を聞く場を設けるようにしている。場合によっては多職種から助言を受け提案したり、専門職に繋いでいる。 	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会以外にも、行事や参観等で交流する機会を設けている。 ・夏季登園時にきょうだい対応をしている。 ・保護者会の活動で講師等の派遣や手続きの助言や手伝いをしている。 ・親子通園のため、保護者会活動に集中して参加できるように、その時間は親子分離をしている。 	・りぼんグループでは夏休み期間中に兄弟と一緒に保育に参加しているが、ころころグループは託児のみの実施しかできていないため、きょうだいで参加できる行事の検討をしていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談や申し入れがあれば、上司へ報告すると共に、その都度保育士間で解決に向けて対策を考えている。 ・苦情受付窓口として、重要事項説明書に明示し、口頭での説明を行っている。 ・保育や休憩時等に保護者からの相談等を聞くようにしている。場合によっては、別室や保育後等落ち着いて相談等ができるようにしている。 	・解決に向けての対応や対策が十分ではなかったところがあるので、保護者へのフィードバックや対応が迅速に行えるよう努めていきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて39メールで保護者に情報を伝えている。 ・毎月センター便りを配付し行事のことやお知らせを伝えるようにしている。 	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に個人情報の取り扱いについて説明したうえで同意を得ている。保護者の同意なしで情報の提供はしていない。 ・書類、PC上の情報についても保護者から知り得た情報を職員からの漏えいがないように心掛けている。関係機関との情報を共有するために個人情報を取り扱う時も漏えい、紛失がないように管理をしている。 ・施設される場所に個人情報に関する書類等を保存し、破棄する際は機密文書として廃棄処理している。 	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		加古川市立こども療育センター				公表日	令和8年1月29日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示板にその都度張り出す、もしくは個別に紙媒体で情報を渡している。保護者から意見や質問ができるよう、意見箱の設置をし周知している。 ・ こどもとの意思の疎通について、ボードに書く、カード提示をする等でインプットし、指握りや発声、アイコンタクトなどでアウトプットできる等、一人ひとりに合った方法を取り入れている。また、その様子を保護者とも確認しながら繰り返し定着できるよう取り組んでいる。 		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の行事に招待することはできていないが、お楽しみ会等こちらから依頼して音楽療法や、人形劇等こどもや保護者の経験の場を増やすことはしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のイベント情報があれば提供していきたいが、事業所に招待する等の行事は現在の業務的に難しい。今後、どのような機会があるか検討していきたい。 	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 警報、災害、不審者への対応についてマニュアルを策定し、しおりに提示し保護者に配布している。 ・ 毎月避難訓練(火災・地震・防犯)を実施し、実際に災害が起きた時に必要なことや物がイメージできるように親子で参加してもらっている。 ・ 火災避難訓練については、出火場所が変わったり事前告知が無かったり変化をつけることで、確実な判断のもと安全に避難誘導ができるよう職員自身の訓練となるようにしている。 ・ 感染症対策は定期的に確認・情報共有している。 		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ BCPの作成はできている。 ・ 総合防災訓練では、消防署職員監修のもと、災害を想定した訓練を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次避難の訓練はしているが、2次避難の訓練実施ができていない。他市からの利用児もいるため、2次避難の判断や連絡方法など検討していきたい。 	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にこどもの状況を確認し、その都度のこどもの状況にも留意し把握をしている。 ・ 入園時にアセスメントの中で配慮すべきことがあれば聞き取り周知している。 ・ 必要に応じて書類を提出してもらい、センターで服薬が必要な場合は事前に伝えてもらっている。また、預かりが必要な場合(親子分離保育中)は看護師とも情報共有をしている。 ・ 服薬の種類が増えたり変更したりした場合、保護者とも確認をするが、センターの医師や看護師からの説明や対処法を会議等で確認している。 		
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギーがあるこどもについては管理栄養士や調理師と共有し、入園までに主治医の診断のもと除去対応食の提供をしている。「アレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらっている（1回/年）。また、盆や食器の色を変え、名札を付けるとともに、配膳時にも保護者への再確認による二重チェックを行い、配膳間違い等の事故防止に努めている。 ・ 毎月、アレルギー会議を行い除去対応の確認をし職員間で共有している。 			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		加古川市立こども療育センター				公表日	令和8年1月29日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・月末に園舎内外点検を実施し安全確認を行っている。職員用のチェックリストを基に個人の安全管理を振り返る機会つくっている。 ・保護者と一緒に登園するため、駐車場内での注意点も伝えている。 ・ヒヤリハットがあれば都度、報告、検証、共有をし、記録をファイリングしている。 			
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・救急対応、AED使用等について、保護者会を通じて実際に体験してもらう機会を設けている。 ・こども一人ひとりの運動発達段階に違いがあるが、自由に移動ができるような環境設定をしているため、保護者がこどもから離れる時は必ず職員に声をかけてから離れるようにし、職員は安全確保と見守りをするようにしている。 			
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・案件を共有し、記録を残し、防止に向けた話し合いを持っている。 			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として虐待防止についての研修を受講する機会を設け、職員へ1回/年伝達研修をしている。 			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・行動制限ケース検討会、適正会議を行い、職員間での共有、保護者への説明、同意を得た上で決定している。 			